令和5年度 山形県立庄内総合高等学校 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

教育目標	心豊かに、たくましく生き抜く社会人の育成をめざし、知性と情操、自立と連帯、気力と体力を培う
スクール・モットー	『磨こう個性を 拓こう未来を』
スクール・ミッション	<全日制> 総合学科の特色を活かして生徒一人ひとりの興味・関心に基づく科目を開設し、主体的な学習活動を充実させて、それぞれの個性を最大限に伸ばさせるとともに、地域との連携を大切に し、多くの体験と出会いから自分の在り方生き方を見つめ、地域社会の発展に貢献できる人材を育成します。
	<定時制> 少人数で学ぶ中で、総合学科の特色を活かした多様な科目を開設し、学び直しによって基礎的な学力を高めて、生徒一人ひとりが実社会で主体的に生きる力を養い、それぞれの個性を 最大限に伸ばさせるとともに、地域と連携した様々な体験と出会いを通して、地域社会に貢献できる人材を育成します。

<評価の基準> A:達成度 80%以上 B:達成度 60%以上 C:達成度 40%以上 D:達成度 40%未満

分掌	重点項目	重点取組	具体的方策	自己評価		課題と改善策
				取組と達成状況	評価	
教務課	確かな授業力の充実による	① UDの視点での授業改善による学習意欲の喚起と学力向上 ② ICTを効果的に活用した教育活動の推進 ③ 観点別評価等の評価方法の研究と実践 ④ 図書館の積極的な活用と読書活動の推進 ⑤ 「学び直し」による基礎学力の確実な定着(定時制)	・UDをテーマとした研究授業週間を設け、UDの推進に努める。 ・生徒1人1台パソコンを活用した学習方法についての研究・研修をすすめる。 ・観点別評価についての情報交換の場を設け、よりよい評価方法について研究を行う。 ・生徒の学力の把握と学び直しに向けた学習方法の研究を行う。	・1月中に実施予定である。 ・夏休みにchromebookの活用についての研修会を実施した。1月の研究授業週間でもテーマの1つとして実施予定である。 ・成績会議で各教科の評価の状況を示し、各自が参加した研修会資料を回覧することで情報を共有した。 ・進路課と連携して基礎力診断テストを実施し、その結果を成績会議で共有した。定時ではAIドリルの活用の検討がなされた。	A A B B	・特に全日での学力向上や学び直しの策を検討する必要がある。
	指導2導の推進	① 地域と連携した探究型学習の推進 ② 自己実現を図るためのふるさとキャリア教育の充実 ③ 個々の志望に応じたきめ細かな指導体制の構築と実効的運用	・地域の人材や施設を利用した授業展開を推進する。 ・新たな教育課程の検討とその運用の準備、科目選択のための資料の整備を行う。	・地域の自然や地域を学ぶ、フードデザインや生活福祉、キャリア総合などで実施することができた。 ・在校生に対する運用は順調に行うことができた。全日制の次年度入学生準備を継続して行っている。	A B	・全日の次年度入学生の教育課程については、現時点で協議中である。終了次第、科目選択資料の準備に取りかかる。
	全康3教と育安心の心身の充実	① 「いのちの教育」をおとした思いやりの心や自己肯定感の育成 ② 豊かな人間関係の構築と「いじめ防止基本方針」に基づいた取り組みの徹底 ③ 特別支援教育の充実とソーシャルスキルの育成	・生徒の特性に合わせた支援(授業、試験など)を、保健課と協力しながら行う。	・1年次生の生徒を中心に、授業の進め方や試験の出題形式の支援を行った。また、成績会議で各クラスの生徒情報の共有もしている。	B	・保健課との連携の強化
	た魅4学力校あ地づく域く開連りか携れと	① 家庭や地域との連携・協働による教育活動の推進 ② 生徒の主体性を活かした特色ある学校づくりの推進とボランティア活動の充実 ③ 自主的・自律的な特別活動等の推進 ④ 広報活動の充実と学校ホームページ等の活用による積極的な情報発信	・新たな教育課程に即した選択のしくみの確立と系統的学習を推進する。 ・ホームページを活用した学校生活、学習の紹介を行う。	全日1年次生の選択の仕組みを改善した。全日の次年度入学生の教育課程では、さらなる系統学習を進める形を進めている。 教科の偏りはあるが、HPの活用を行っている。	A B	・より多くの教科のHP活用を進める。

学校関係者評価 自己評価に対する評価
学力向上はとても大切なことです。是非、個々の適性にあった学びが出来るようAIドリルの導入など積極的に取り組んで欲しい。

分掌	重点項目	重点取組	具体的方策	自己評価		課題と改善策
				取組と達成状況	評価	
進路課	育よ1成確確か業の学充力実の	① UDの視点での授業改善による学習意欲の喚起と学力向上 ② ICTを効果的に活用した教育活動の推進 ③ 観点別評価等の評価方法の研究と実践 ④ 図書館の積極的な活用と読書活動の推進	・基礎力診断テストを継続して実施し、自己分析を通して進路選択・希望実現につながる。 ・生徒の端末から求人票の閲覧ができるようなシステムを構築する。 ・進路閲覧室の配置を工夫し生徒が活用しやすい環境を作る。	継続して実施している。また、進路選択時の参考資料として活用した。 高卒WEB求人サイトの他に外部クラウド(Handy進路指導室)からも求人票検索ができるようになり、2・3年次が登録し閲覧している。 夏の暑さで環境としてはよくないが手に取りやすい配置にすることはできた。進路閲覧室に生徒用WiFiが無い為chromebookでの検索はできなかった。	B B B	基礎学力の向上のための取り組みが必要 要望として21教室のエアコンの設置、進路閲覧室にアクセスポイントの設置。
	の2充進キ実進キと進り路ア指教導育	① 地域と連携した探究型学習の推進 ② 自己実現を図るためのふるさとキャリア教育の充実 ③ 個々の志望に応じたきめ細かな指導体制の構築と実効的運用	・生徒の仕事観・職業観を育成する書籍をHRに配置する。 ・生徒の進路希望等の情報を全職員で共有し、生徒一人一人に対する進路指導を全員態勢で行う。 ・地元企業との交流会及び事前学習を通して職業意識を高める。	生徒が手に取りやすい書籍をHRに配置した。さらに随時進学就職の情報を得るための雑誌を追加している。 職員模擬面接や職員進学指導など、全職員体制で進路指導を行うことができた 地元企業との交流会を1月に予定している	B B	
	充安3実心・心身安全の教健育康のと	① 「いのちの教育」をおとした思いやりの心や自己肯定感の育成 ② 豊かな人間関係の構築と「いじめ防止基本方針」に基づいた取り組みの徹底 ③ 特別支援教育の充実とソーシャルスキルの育成	・進路体験学習を通して挨拶やマナー、礼儀の必要性や意義を理解し習得する。 ・多様な生徒の進路選択に柔軟に対応するために外部団体との連携を密にする。 ・面接指導を通して生徒の長所を引き出し自己肯定感を育成する。	企業ガイダンスなど、直接企業の方と接する中で礼儀やマナーを意識させることができた。 庄内町との連携やハローワークとの連携し多様な生徒の進路決定に対応した 2度の職員面接会やPTA面接指導が生徒の自己肯定感につながっている。	B B B	当日の欠席者が多く次年度以降の課題となった。
	校力4づあくる地り開域か連れ携れと学魅	① 家庭や地域との連携・協働による教育活動の推進 ② 生徒の主体性を活かした特色ある学校づくりの推進とボランティア活動の充実 ③ 自主的・自律的な特別活動等の推進 ④ 広報活動の充実と学校ホームページ等の活用による積極的な情報発信	・PTA進路部会による模擬面接を実施する。 ・地元企業と連携した職業体験や学校・企業見学会を企画し職業意識を高めた。 ・HPを利用し地元企業と連携した取り組みを発信する。	多くの保護者に協力いただき2回の模擬面接を実施することができた。 庄内進路見学会ツアーやWAKUWAKUワーク、庄内町企業ガイダンスなど連携することができた。 これから発信したい。	B A C	当日の欠席者が多く次年度以降の課題となった。 担当者を明確にしてHPにアップするまでが仕事であることを明確にする。

学校関係者評価 自己評価に対する評価
地域住民としては高校生と交流を持つことはとても大切なことだと考えている。町の行事への参加やインターシップ等をもっと積極的に活用して地域と学校が一体となって子供を育てていきたい。

分掌	重点項目	重点取組	具体的方策	自己評価		課題と改善策	学校関係者評価 自己評価に対する評価
				取組と達成状況	評価		
生徒課	育1 成る 確 授 業 の 学 力 充 実 の に	① UDの視点での授業改善による学習意欲の喚起と学力向上 ② ICTを効果的に活用した教育活動の推進 ③ 観点別評価等の評価方法の研究と実践 ④ 図書館の積極的な活用と読書活動の推進	・社会のルールや集団生活に必要なマナーを重んじる態度を育てる。 ・学校が安心できる学びの場となるよう、お互いを気遣うことができる心を育てる。 ・服装頭髪指導や言葉遣いなどの指導を通して、「凡事徹底」の確立を目指す。 ・カウンセリング体制の充実を図り、必要とする生徒・保護者へ積極的に周知していく。	周冊の迷惑を顧みない行為が時折見受けられ、その都度注意喚起を行った。 他分掌、各年次との連携を深め、かつあらゆる機会を捉えて生徒への働きかけを行った。 生徒会と共に「授業を受けるのにふさわしい服装」を呼び掛けてきた。 カウンセリング体制の充実を図り、今後の指導の方向性を見出すことができた。	B B B B	「ふさわしい身だしなみ」とは、頭髪や化粧、ピアスなどが全て「自由」なことも「ふさわしい身だしなみ」なのか。「求人」をいただいている企業、庄内町役場。保護者。卒業生」などの声を聞いてほしい。生徒課としては、今の現状がふさわしいと考えているのかお聞きしたい。	身だしなみについて生徒達に考えさせるというのは大切であると考えます。大学生や社会人は様々な姿の若者がいる。就職試験の時などはカメラがしっかりつけさせられるのであればある程度の事由があってもよいのではないかと。
	の2 推 進 キ ャ リ ア 指 導 育	① 地域と連携した探究型学習の推進 ② 自己実現を図るためのふるさとキャリア教育の充実 ③ 個々の志望に応じたきめ細かな指導体制の構築と実効的運用	・生徒会活動や委員会活動、部活動などを通して生徒の自主性を育む活動を展開する。 ・生徒の積極性を引き出し、地域との関わりなどについて自ら行動できるようにする。	服装や携帯電話使用のルール順守の呼びかけ、昼休みの校内放送など、意欲的に活動することができた。 ふるさとCM大賞等に積極的に参加し、活動することができた。	A A		CM大賞でグランプリを獲得したことは素晴らしいことである。地域住民としても誇りに思うことが出来た。
	心3 安 心 全 身 教 育 の 健 康 充 と 実 安	① 「いのちの教育」をとおした思いやりの心や自己肯定感の育成 ② 豊かな人間関係の構築と「いじめ防止基本方針」に基づいた取り組みの徹底 ③ 特別支援教育の充実とソーシャルスキルの育成	・様々な行事、活動を通して、生徒会・各種委員会・HR活動の充実、活性化を図る。 ・自他の生命を尊重する心を育て、「いじめを絶対に許さない」環境づくりを行う。 ・安全や健康に対する自己管理能力を高め、健全な学校生活の実現を目指す。 ・年次団との連携やS.C面談を通して、心身の健康に課題を持つ生徒の支援を充実させる。	以前のようなコロナ禍による制約がなくなりつつあり中で、生徒会を中心にそれぞれの活動において意欲的に活動することができた。 いじめ調査アンケート、スクールサインの活用、さらには各年次の協力を得ることにより、適切に対処することができた。 生徒に必要な情報提供・注意喚起を行い、自己管理能力を高めることができた。 生徒1人1人が抱える課題は様々ではあるが、各年次との連携を強化することにより、一定の成果を上げている。	A B B B		
	くあ 4 り 開 地 域 と 連 携 し た 推 進 の 推 進 の 推 進 の 推 進	① 家庭や地域との連携・協働による教育活動の推進 ② 生徒の主体性を活かした特色ある学校づくりの推進とボランティア活動の充実 ③ 自主的・自律的な特別活動等の推進 ④ 広報活動の充実と学校ホームページ等の活用による積極的な情報発信	・各種ボランティア活動や地域行事などへの参加を積極的に行い、地域の一員としての意識を育てる。 ・地域へ学校をPRするための広報活動を積極的に行う。	ふるさとCM大賞への参加を呼び掛けて有志を募り、自ら考え、行動する生徒を支援することができた。 ハーバーラジオの「羽ばたけスクールライフ」において学校の現在を伝え、広くPRすることができた。 課会においてはもちろんのこと、日常より意識疎通を欠かさずに行なったことにより、一つのチームとして生徒指導に取り組んでいる。	A B A		

分掌	重点項目	重点取組	具体的方策	自己評価		課題と改善策	学校関係者評価 自己評価に対する評価
				取組と達成状況	評価		
総務図書課	か1 な 学 授 力 業 の 育 充 成 実 に よ る 確	① UDの視点での授業改善による学習意欲の喚起と学力向上 ② ICTを効果的に活用した教育活動の推進 ③ 観点別評価等の評価方法の研究と実践 ④ 図書館の積極的な活用と読書活動の推進	・図書館の積極的な活用推進のために、蔵書の充実を図る。 ・図書館利用について、授業やキャリア学習等で活用しやすい環境を整える。 ・読書活動推進のため、年間貸出数を一人当たり5冊以上を目標とする。	・教員や生徒の購入希望を随時受け、計画的な購入を行なった。 ・授業等の利用状況を見ながら、不足資料の補充に務めた。 ・図書委員作成の「図書館だより」や「新着図書案内」を発行し、図書館利用拡大に努めた。R5年度4～11月期の貸出総数は968冊（昨年度845冊）で、一人当たりの平均貸出冊数は5.4冊（昨年度4.7冊）だった。	A A A	目標値を上げ、さらなる読書活動の推進に取り組んでいく。	
	指 導 の 推 進 の 推 進 の 推 進	① 地域と連携した探究型学習の推進 ② 自己実現を図るためのふるさとキャリア教育の充実 ③ 個々の志望に応じたきめ細かな指導体制の構築と実効的運用	・式典での礼法指導を体感させることで、挨拶習慣やマナーを身につけさせる。 ・式典前に礼法指導や着こなし指導を行った。号令なしの礼など定着しつつある。		B B	礼の仕方や推奨服の着こなしについては不十分な面がある。授業開始、終了時の礼などで日常的な指導をお願いしていきたい。	
	心3 安 心 全 身 教 育 の 健 康 充 と 実 安	① 「いのちの教育」をとおした思いやりの心や自己肯定感の育成 ② 豊かな人間関係の構築と「いじめ防止基本方針」に基づいた取り組みの徹底 ③ 特別支援教育の充実とソーシャルスキルの育成	・防災訓練などを通して、日頃の防災への意識を高め、自分自身だけでなく、家庭や地域、他に対する防災意識を持たせていく。	・2回（6月火災、10月地震）の防災訓練を行った。避難経路などを予告せず行ったが、大きな混乱もなくスムーズに避難することができた。 ・危機管理の手引きに、不審者への対応、熱中症への対応を追加した。職員への周知を行った。	B B	今後も実際に即した形の訓練形態を考えていく。巨大地震発生の際の家庭との連絡取り方等について考えていく。（スマホの扱い等を含めて） 随時、見直しの視点で改善を図っていく。	
	か 地 域 と 連 携 し た 推 進 の 推 進 の 推 進	① 家庭や地域との連携・協働による教育活動の推進 ② 生徒の主体性を活かした特色ある学校づくりの推進とボランティア活動の充実 ③ 自主的・自律的な特別活動等の推進 ④ 広報活動の充実と学校ホームページ等の活用による積極的な情報発信	・保護者が学校活動に興味関心を持って参加できるように、PTA専門部活動と連携しながら活動紹介する。 ・PTAや同窓会の広報誌をホームページに掲載する等、様々な年代へ向けての情報発信をする。 ・緊急時や行事連絡等の情報発信網を活用し、PTA関係連絡が効果的に活用できるように管理する。 ・同窓会との繋がりを通じて地域を愛する気持ちや母校に対する誇りを育てる。	・PTA調査広報部会は書面で開催。（役員負担軽減のため）広報誌9月発行できた。広報誌3月発行に向けて取り組む。 ・欠席連絡をさくら連絡網にしたことで、朝の煩雑さが解消された。 ・具体的なことができなかった。	B B C	広報誌のHPやさくら連絡網での掲載を考えていく。（紙媒体での発行の必要性、校正作業や費用の軽減も含めて） 具体的方策を再度検討する。	

分掌	重点項目	重点取組	具体的方策	自己評価		課題と改善策	学校関係者評価 自己評価に対する評価
				取組と達成状況	評価		
保健課	か1 な学 授力 業の 育充 成実 による 確	① U Dの視点での授業改善による学習意欲の喚起と学力向上 ② I C Tを効果的に活用した教育活動の推進 ③ 観点別評価等の評価方法の研究と実践 ④ 図書館の積極的な活用と読書活動の推進	・特別支援教育支援員の配置と合理的配慮を取り入れ、U Dの推進に努める。 ・学校が安心できる学びの場となるよう、お互いを気遣うことができる心を育てる。 ・カウンセリング体制の充実を図り、必要とする生徒・保護者へ積極的に周知していく。	・特別支援教育支援員の追加配置は実現できなかった。 ・S Cの事情でGoogle Meetで今年も実施した。人と接するのが苦手な生徒にとって効果はあったが、保護者からは不評だった。 ・全課程でまとめてS Cを実施しているため、大変混みあう時期があり、年次団の要望に応えきれない場面もあった。回数を追加で増やし対応した。	C B B	・今後も要望を継続していく。 ・次年度は、S Cを3名体制にしている。回数も増やして対応する。また、S P O O N委員会やケース会議などにS Cも出席して助言いただくことも検討している。	
	の2 充推 実進 キと チャ 進リ 路ア 指教 導育	① 地域と連携した探究型学習の推進 ② 自己実現を図るためのふるさとキャリア教育の充実 ③ 個々の志望に応じたきめ細かな指導体制の構築と実効的運用	・保健委員会の活動を通して生徒の自主性を育む活動を展開する。 ・清掃活動を通して環境の美化に取り組む姿勢を培う。 ・心身の健康維持に努め、安定した状態で進路活動に取り組めるようにする。	・清掃の放送、庄総祭での漬物販売・地区研修会への参加・モップ交換、身体測定準備・片付けなどよく取り組んでいる。 ・限られた時間の中で、技能員を始め先生方と生徒達の協力もあり、清掃活動に取り組むことができている。 ・今後も継続して取り組む。	A B B	・次年度の庄総祭でもマルハチさんとコラボして販売することを計画している。販売だけでなく栽培、製造も生徒が体験をしていく予定である。 ・清掃点検は今年度からなくなりますが、清掃重点期間のようなものを設定することを検討している。	
	全3 教 育心 の身 充の 実健 康と 安心 ・安	① 「いのちの教育」をとおした思いやりの心や自己肯定感の育成 ② 豊かな人間関係の構築と「いじめ防止基本方針」に基づいた取り組みの徹底 ③ 特別支援教育の充実とソーシャルスキルの育成	・自他の生命を尊重する心を育て、「いじめを絶対に許さない」環境づくりを行う。 ・安全や健康に対する自己管理能力を高め、健全な学校生活の実現を目指す。 ・年次団との連携やS C面談を通して、心身の健康に課題を持つ生徒の支援を充実させる。 ・通級指導を始め、特別支援教育の充実を図る。	・不登校を始め配慮の必要な生徒が増え、どう対応していくか課題でもある。 ・今後も継続していく。 ・S Cは全課程ともに生徒だけに限らず保護者の希望も増えてきている。不登校や支援が必要なケースも増え、相談内容も複雑になってきた。 ・通級指導は全日制で2名いる。合理的配慮の必要な生徒も増え対応をしてきた。	B B B B	・S C、S S Wを通し、医療機関や外部機関との連携も図る。 ・次年度も、不登校、支援の必要な生徒だけでなく、さまざまな事情を抱えた生徒が増えるので、職員間で情報共有を図り、対応を考えていきたい。	
	る4 開 か地 れ域 た連 学携 校と づ魅 く力 りあ	① 家庭や地域との連携・協働による教育活動の推進 ② 生徒の主体性を活かした特色ある学校づくりの推進とボランティア活動の充実 ③ 自主的・自律的な特別活動等の推進 ④ 広報活動の充実と学校ホームページ等の活用による積極的な情報発信	・全日制・定時制・通信制において、それぞれの持つ独自性を尊重しつつ、連携を深める。 ・学校医を始め、保健所や医療機関と連携をとり、適宜必要な情報を共有する。 ・「保健だより」を適宜発行し、生徒・保護者へ情報発信をする。	・連携の取り方、役割の分担を考えなければならない。 ・今後も継続していく。 ・「保健だより」は適宜発行している。庄総祭での保健委員会の取り組みは荘内日報にも掲載された。今後も継続していく。	C B B	・来年度に向けて役割の分担を考える。	
分掌	重点項目	重点取組	具体的方策	自己評価		課題と改善策	学校関係者評価 自己評価に対する評価
I部 1年 次	る1 確 か授 な業 学の 力充 の実 育に 成よ	① U Dの視点での授業改善による学習意欲の喚起と学力向上 ② I C Tを効果的に活用した教育活動の推進 ③ 観点別評価等の評価方法の研究と実践 ④ 図書館の積極的な活用と読書活動の推進	1 教室内の整理整頓を心がけさせる。掲示物は正面に掲載しない。 2 生徒の個性や、特徴を理解して職員に周知し、学力に応じた指導を工夫していただく。	いろいろな生徒のいる中、環境整備は行われている。 教科からは、個々の生徒に応じた指導の工夫をして頂いている。	A B		
	実進教2 路育 指のキ 導推ヤ の進リ 充とア	① 地域と連携した探究型学習の推進 ② 自己実現を図るためのふるさとキャリア教育の充実 ③ 個々の志望に応じたきめ細かな指導体制の構築と実効的運用	1 キャリア学習を通して、自分の将来像を具体的に定められるように助言していく。 2 オリジナルメモ帳を作成し、メモを取る習慣を身に付けさせる。	まだ、進路について具体的に考えるプログラムは回数を実施していないが、インターンシップは良いきっかけとなった。2月に業者から入ってもらい進路ガイダンスを行う予定。 オリジナルメモ帳はあまり利用されていなかったが、インターンシップでは活用できていた。これからはメモを取る習慣はつけた。	B B	スマホでスケジュール管理できるようにしてはどうか？	
	心3 ・安 心全 身教 育健 の康 充と 実安	① 「いのちの教育」をとおした思いやりの心や自己肯定感の育成 ② 豊かな人間関係の構築と「いじめ防止基本方針」に基づいた取り組みの徹底 ③ 特別支援教育の充実とソーシャルスキルの育成	1 まず、生徒を認める。「～でなければいけない」からの解放。 2 朝の出席確認は毎日呼名し、生徒の変化に気づけるようにする。 3 きさいなことでも、情報を共有する。 4 支援が必要な生徒を年次、教科担任、家庭と連携をして計画的に支援していく。	大きなトラブルもなく、良い雰囲気である。 欠席者を確認するのではなく、出席している生徒の顔を見て呼名し、返事ができる習慣をつけた。 情報共有はできている。 先生方の協力により、今のところ大きな問題はない。	B B A B		
	る4 開 か地 れ域 た連 学携 校と づ魅 く力 りあ	① 家庭や地域との連携・協働による教育活動の推進 ② 生徒の主体性を活かした特色ある学校づくりの推進とボランティア活動の充実 ③ 自主的・自律的な特別活動等の推進 ④ 広報活動の充実と学校ホームページ等の活用による積極的な情報発信	1 年次PTAや三者面談を通して、保護者との連携を図る。 2 ロングホームルームや学校行事を通して主体性を育てる。(自律した生徒の育成) 3 年次だよりやホームページで生徒の頑張りを発信する。	欠席の多い生徒の家庭とは常に連絡を取り、面談を行ってきた。7月14日年次PTAを懇親会付きで行った。多くの保護者に参加していただき、より深い話ができた。次回3月に開催予定。 修学旅行委員を立ち上げ、業者のプレゼンから参加させることができた。 月1回程度の発行ができた。	A A A	1組はクラスだより8号までを発行した。	

分掌	重点項目	重点取組	具体的方策	自己評価		課題と改善策	学校関係者評価 自己評価に対する評価	
				取組と達成状況	評価			
I部 2年次	る1 確か 授な 業学 の力 充の 実育 に成 よ2	① UDの視点での授業改善による学習意欲の喚起と学力向上 ② ICTを効果的に活用した教育活動の推進 ③ 観点別評価等の評価方法の研究と実践 ④ 図書館の積極的な活用と読書活動の推進	1 自学ノートの継続、授業内の指示や連絡のメモを取る習慣を身につける。	自学ノートは提出率に差がある。授業連絡等でメモを活用している。	B	B B C C A A C B A B A B	B B C C A A C B A B A B	B B C C A B A B A B A B
			2 授業やHR等でクロムブックを活用できるように日頃から使用させる。	キャリアの学習でもクロムブックを活用できた。忘れる生徒が数名。	B			
	3 成績を分析し、観点別評価について研究していく。	成績会議前には年次で成績分析会を実施。	B					
	4 LHR等で図書館を利用して読書活動を推進する。朝読書を実験的に行う。	実施できていない。	C					
指育2 導のキ 充の推 進の充 実とア 路教	① 地域と連携した探究型学習の推進 ② 自己実現を図るためのふるさとキャリア教育の充実 ③ 個々の志望に応じたきめ細かな指導体制の構築と実効的運用	1 地域に向出した学習を行う。	ディベート学習の一環として町議会を見学予定だったが実施ならず。	C	C A A	C A A	C A A	
		2 「山形のスペシャリストに聞くトップセミナー」を実施、生徒が地元の良いことを知り、進路に活かす。	庄内弁を広めるために様々な活動をしている方の話を聴くことができた。全員で踊る場面もあり、明るく前向きになる講話であった。	A				
充安3 実心・ 心 安身 全の 教健 育康 のと	① 「いのちの教育」をおとした思いやりの心や自己肯定感の育成 ② 豊かな人間関係の構築と「いじめ防止基本方針」に基づいた取り組みの徹底 ③ 特別支援教育の充実とソーシャルスキルの育成	1 周りの人への感謝、思いやりを育て、いじめを見逃さない生徒を育てる。	人間関係に悩み、欠席が増えた生徒がいた。	C	C B A	C B A	C B A	
		2 自分を強みを知り、周りの個性を認め合う。	2中学校行事を通して多くの人とコミュニケーションをとれるようになってきた。	B				
校力4 つあ ぐる地 り開 域か 連れ 携た と学 魅	① 家庭や地域との連携・協働による教育活動の推進 ② 生徒の主体性を活かした特色ある学校づくりの推進とボランティア活動の充実 ③ 自主的・自律的な特別活動等の推進 ④ 広報活動の充実と学校ホームページ等の活用による積極的な情報発信	1 年次日よりHPの活用を通し、学校生活の様子を発信する。	キャリア活動や修学旅行の内容をHPで発信することができた。	B	B A B	B A B	B A B	
		2 進路親子研修会を実施し、進路目標に向かって早めに準備ができるようにする。	7月に実施。親子で実施することでお互いの進路意識を高め、情報を提供することができた。	A				
開4 か れ地 た域 学連 校携 づと く魅 り力 ある	① 家庭や地域との連携・協働による教育活動の推進 ② 生徒の主体性を活かした特色ある学校づくりの推進とボランティア活動の充実 ③ 自主的・自律的な特別活動等の推進 ④ 広報活動の充実と学校ホームページ等の活用による積極的な情報発信	3 学校行事を通して自ら考えて行動、リーダーを育成する。	まだおとなしい。今後の活躍に期待したい。	B	B A B	B A B	B A B	
		3 学校行事を通して自ら考えて行動、リーダーを育成する。	まだおとなしい。今後の活躍に期待したい。	B				

分掌	重点項目	重点取組	具体的方策	自己評価		課題と改善策	学校関係者評価 自己評価に対する評価	
				取組と達成状況	評価			
I部 3年次	る1 確か 授な 業学 の力 充の 実育 に成 よ2	① UDの視点での授業改善による学習意欲の喚起と学力向上 ② ICTを効果的に活用した教育活動の推進 ③ 観点別評価等の評価方法の研究と実践 ④ 図書館の積極的な活用と読書活動の推進	1 日々の授業にスケジュール手帳を携行させ、授業内の指示や連絡のメモを取る習慣作り。	1 持ち歩く生徒は、昨年度より増加した。検定やアルバイト、委員会など忙しい生徒は活用していた。	B	B C C A A B B A A	B C C A A B B A A	B C C A A B B A A
			2 学習環境を整えるため、机の中 教室後ろと廊下のロッカーの整理整頓を心掛ける。	2 全体としては良好であったが、一部声掛けしても中々改善しない生徒も見受けられた。	C			
	3 図書委員会と連携して、教室に新聞を設置し、読むことについて推奨する。	3 新聞を熱心に読んでいた生徒は多くはなかったが、進路活動では生かすことできた。	C					
	進2 路指 導のキ 充の推 進の充 実とア 路教	① 地域と連携した探究型学習の推進 ② 自己実現を図るためのふるさとキャリア教育の充実 ③ 個々の志望に応じたきめ細かな指導体制の構築と実効的運用	1 面談を通して、進学、就職ともにミスマッチを防ぎ進路希望を実現させる。	1 担任と共に、進路課長、就職担当を中心に懇切丁寧な指導をしていた。	A			
2 進路課と連携を密にし、情報を共有し、生徒に提供する。	2 進路課とは、密に連携をとることができた。		A					
安3 全教 育身 の充 健実 康と 安心 心・	① 「いのちの教育」をおとした思いやりの心や自己肯定感の育成 ② 豊かな人間関係の構築と「いじめ防止基本方針」に基づいた取り組みの徹底 ③ 特別支援教育の充実とソーシャルスキルの育成	3 個性豊かな卒業研究の工夫。課題解決に向けた情報収集の仕方を体験を通し学ばせプレゼンテーション力を育成する。	3 以前は人前でのプレゼンテーションができなかった生徒もできるようになったことは成長のあらわれである。生徒自身の経験の積み重ねと年次団中心に職員の手厚い対応の成である。	A	A B B A	A B B A	A B B A	
		1 ソーシャルスキルトレーニングとして、職員室等の入室の仕方を始めとする礼法を指導する。	1 職員室の出入りやマナーはしっかりできた。	A				
開4 か れ地 た域 学連 校携 づと く魅 り力 ある	① 家庭や地域との連携・協働による教育活動の推進 ② 生徒の主体性を活かした特色ある学校づくりの推進とボランティア活動の充実 ③ 自主的・自律的な特別活動等の推進 ④ 広報活動の充実と学校ホームページ等の活用による積極的な情報発信	2 相手の立場になり、物事を考え行動する意識を養う。	2 3年次になっても、人間関係トラブルはあったが、3年間の学習により対処方法を学んだと思われる。	B	B B A	B B A	B B A	
		3 行事等を通して人間関係の構築を図り、縦横のつながりを意識し、最年次としてのリーダーの育成に努める。	3 行事を通してクラスの団結が深まったと思われる。	B				
開4 か れ地 た域 学連 校携 づと く魅 り力 ある	① 家庭や地域との連携・協働による教育活動の推進 ② 生徒の主体性を活かした特色ある学校づくりの推進とボランティア活動の充実 ③ 自主的・自律的な特別活動等の推進 ④ 広報活動の充実と学校ホームページ等の活用による積極的な情報発信	4 進路実現に向け、コトレ教育の創意工夫。	4 コトレのおかげで、進路活動に向かうことができた。感謝。	A	A A	A A	A A	
		1 年次日よりHPの活用を通し、学校生活の様子を発信する。	1 年次よりは、生徒に配付。保護者にはさくらメールで毎回発信した。	A				
開4 か れ地 た域 学連 校携 づと く魅 り力 ある	① 家庭や地域との連携・協働による教育活動の推進 ② 生徒の主体性を活かした特色ある学校づくりの推進とボランティア活動の充実 ③ 自主的・自律的な特別活動等の推進 ④ 広報活動の充実と学校ホームページ等の活用による積極的な情報発信	2 年次PTAや三者面談を通し、保護者との連携を密にする。	2 年次PTAでは、多くの保護者に出席いただいた。クラス懇親会を実施することができた。	A	A A	A A	A A	
		2 年次PTAや三者面談を通し、保護者との連携を密にする。	2 年次PTAでは、多くの保護者に出席いただいた。クラス懇親会を実施することができた。	A				

人間関係の脆弱さを補うには、地域の方々の協力など第三者の力も大切ではないか。校内に留まらず広い視点で教育をして欲しい。

人間関係の脆弱さを補うには、地域の方々の協力など第三者の力も大切ではないか。校内に留まらず広い視点で教育をして欲しい。

分掌	重点項目	重点取組	具体的方策	自己評価		課題と改善策	学校関係者評価 自己評価に対する評価
				取組と達成状況	評価		
キャリア I部 1	2	キャリア教育の推進と進路指導の充実	<p>1. キャリアパスポートの有効活用 ⇒中学校までのキャリアパスポートと高校でのキャリアパスポートを一冊のファイルに収納し、生徒がこれまでの自分の成長や学びの系統性を振り返ることができるようにする。キャリアパスポートをもとに生徒と担任・年次団・保護者で対話し、生徒の新しい気付きや学びの深まりを促し、自己実現につなげられるようにする。</p> <p>2. これからの社会の変化を意識した進路選択をする力の育成 ⇒インターンシップを含めた様々な体験活動・学習活動を通して、これからの社会の変化や求められる力を学ぶことができるようにし進路選択につなげる。</p>	1計画に従って学びのための活動が実施できた。	A		
				2夏季休業前の外部講師の講話は、各生徒が感銘を受けた様子だった。インターンシップの実施は、進路へ向けた一つの意識付けになった。	B		
キャリア I部 2	2	キャリア教育の推進と進路指導の充実	<p>1. キャリア総合1の学習をさらに深め、様々な活動を通して、将来の職業生活に必要な態度やコミュニケーション能力、自分を表現する力を養う。</p> <p>2. 自ら様々な情報入手・分析し、多様な可能性の中から進路を自己決定する力を養う。</p> <p>3. 様々な活動や修学旅行等の学校行事をとおして、豊かな人間性・社会性を育みながら自己の未開発な面を発見する力を養う。</p>	1計画に従って学びのための活動が実施できた。	B		
				2計画に従って学びのための活動が実施できた。	B		
				3計画に従って学びのための活動が実施できた。	B		
キャリア I部 3	2	キャリア教育の推進と進路指導の充実	<p>1. 身につけたい力を明示した授業改善を行う ⇒身につけたい力を明示した授業改善を入れ、生徒が目標達成に向けて何をすべきか主体的に考えて取り組もうとする学習環境をつくり、生徒の課題解決力や将来設計力の向上につなげる。</p> <p>2. 情報の「収集・選択・活用」力の向上を目指す ⇒多様な情報の中から自分が必要とする進路情報を収集・選択させ、情報を比較検討させた上で自らの進路実現に向け活用させる。</p> <p>3. 卒業研究を通して、学びを深めようという意欲やチャレンジ精神を高める。 ⇒探究型学習の流れや取り組み方を、学習の深め方を体験させながら具体的にイメージさせ学習の見直しを持たせる。 ⇒実際にプロジェクトに取り組まれている方の課題解決に向けた一連の活動について学ばせ、探究活動の進め方や深め方を具体的にイメージさせる。</p>	1. 評価の現点を明示することで、生徒が目標達成に向けて何をすべきかを具体的にイメージさせることができた。それにより、一定の成果を見取ることができた。	B	<p>・目標達成に向けて何をすべきかは具体的にイメージできても、どのような方法で取り組めばよいかの判断できないところが課題である。全体でどのような方法で取り組むとよさそうか議論をさせる等の工夫をしていきたい。</p> <p>・他教科とのカリキュラムマネジメントを取り入れ、横断的に情報の選択・活用の部分の強化がはかれるように、他教科での取り組み等の情報交換を密に行っていきたい。</p>	総合学科発表会を拝見させて頂き、今回は工業系列のコマの発表に感心させられた。庄内総合高校で工業科目を扱っていることを知らなかったもので、今後もっとPRしても良いのではないかと思います。
				2. 目的意識を持たせて情報収集に取り組ませることができた。卒業研究では、情報の選択・活用の部分については教員がアドバイスをしながら、教員と生徒で共に学びが深められるように務めた。生徒は不慣れな部分があり苦労していたが、前向きな取り組みは評価できる。	B		
				3. 全員が最後まで卒業研究を完成させることができ、探究学習の深め方・進め方を体験的に学習させることができ、手ごたえを感じている。	A		
キャリア II部 1	2	キャリア教育の推進と進路指導の充実	<p>1. 職業人インタビューの実践などを通して、将来の職業生活に必要な態度やコミュニケーション能力、自分を表現する力を養う。</p> <p>2. クラスメイトや全日制生徒との交流など様々な活動をおして、豊かな人間性・社会性を育みながら自己の未開発な面を発見する力を養う。</p>	1 職場訪問インタビューのまとめ発表ができない生徒が出たことは大きな課題である。	C		
				2 年間を通して、他者との交流に挑戦できるようになってきた。	B		
キャリア II部 2	2	キャリア教育の推進と進路指導の充実	<p>1. キャリア総合1の学習をさらに深め、様々な活動を通して、将来の職業生活に必要な態度やコミュニケーション能力、自分を表現する力を養う。</p> <p>2. 自ら様々な情報入手・分析し、多様な可能性の中から進路を自己決定する力を養う。</p>	計画通り、実施を進めることができている。	B		
				将来につながる職業間について、各生徒の中で芽生えてきていることは見て取れるが、より明確化につながる深化を図りたい。	B		